

自助具体験&ふれあいコンサート



▲自助具相談員の横川匡昭さん(左側男性)



▲作業療法士の菊地泰雅さん(右側男性)



◀左から赤澤園珠希さん(琴)、三井生子さん(ソプラノ)、三井関山さん(尺八)

12月11日(土)障がい者の社会参加を実現するために運営されるもしびショップ「フアースト」(さくら館内)にて、「障害者週間」と「ともしび運動」を皆さまに知っていただくため、自助具体験とふれあいコンサートを開催しました。自助具相談員と作業療法士による自助具体験では、実際に自助具を手に取り、積極的に質問するなど、参加者の皆さんに興味を持ってもらうことが出来たようです。先の曲がったスプーンや、繋がった箸など、一見不思議な道具に興味津々でした。

「障害者週間」

12月3日から9日の一週間は、障がいのある・ないに関わらず誰でも参加できる社会を実現するための普及啓発期間であると障害者福祉法に定められています。

「ともしび運動」

年齢、国籍、障がい等関係なく、すべての人たちがお互いに理解し、人権を尊重しあい、手を携えて歩むことができる「ともに生きる福祉社会づくり」を推進するかながわの県民運動です。



2010/12/09



2010/12/09

楽しかったね! レクリエーション!!

12月9日に三鷹市民保養所「箱根みたか荘」で箱根町ボランティア連絡協議会の主催により「障がい者とボランティアのつどい」を開催しました。毎年恒例となっているこの行事に今年は34名の方が参加し、レク・コーデイネーター(福祉レクワーカー)の小泉八重子氏のリードで障がい者とボランティアも一緒に工作やゲームなどを行いました。チーム対抗のゲームなどに障がい者の方もボランティアの方も同じように童心に帰って心の底から楽しみ、笑顔があふれるつどいとなりました。

事務局だより

先日、うちの娘が鼻水をズルズルし始めました。とりあえず、熱を測ってみたのですが、熱は無く、特に喉が痛いとか、頭が痛いとかの痛みの訴えも無く、本人も元気があったので様子を見ることにしました。

一週間ほどたった頃、夜中に咳をしているので、再び熱を測ってみると、今度は38℃近くの熱がありました。翌日、小児科に連れて行き診察していただき、風邪との診断結果でした。薬を処方していただいたので、これで、2、3日もすれば良くなるだろうと安心していったところ、その日の夜中に突然「耳が痛いよ。」と泣いて飛び起きました。私も、どれくらい痛いのか知りたかったので、「足の小指を角にぶつけるのとどちらが痛い??」と、娘に聞いてみたところ、「爪が剥がれるより痛い。」と返ってきたので、「それは本当に痛いんだね。」などと、お気楽な返事をしてしまいました。(娘は小さい頃、足の爪が剥がれたことがありました。)

その後も、「耳が痛くて眠れない。」と、泣いて訴えるので、痛み止めを飲ませ、その晩はどうか眠れたようでした。この時、「もしや中耳炎かも!?!」という思いが私の脳裏をかすめました。

そして、翌日、耳鼻科を受診することにしたのです。初診だったこともあり、待ち時間は3時間でした。診察を受けると、やはり中耳炎で、医師は、「これはひどいね。結構痛かったでしょ!?!」と。その日のうちに鼓膜切開を行い、膿を出していただきました。これが娘の初中耳炎でした。

母は、早く気づいてあげられなかったことに、ただただ申し訳なく思い、「これからは気をつけるね。」と心に強く誓うのでした。皆さんも、ちょっとした体調の変化でも注意してください。「まだ大丈夫。」なんて思っていると、後で痛い思いをしてしまうかもしれません。